令和７年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２５００７

プロジェクト名　非被災地における震災の記憶と伝承の教育を母校で行う

プロジェクトの概要

本プロジェクトの目的は震災の内容や震災によってどのような被害が出たのか、復旧や復興はどのように進んでいるのかなど、震災の記憶を風化させないために日大付属である私たちの母校で講演を行うことだ。また、被災地と非被災地での震災に対しての意識の差が大きく違うことを感じその差を講演を行うことで減らすこと、そして講演を聞いた生徒たちが次の世代へと伝える人になってくれることを目標としている。

プロジェクトの結果・成果

プロジェクトの結果として、実際に私たちが９月と２月に能登に行きそこで震災を受けた場所や実際に被災した方々の話を聞いてどのような被害が出たのか、また今の復旧・復興はどのように、そしてどのくらい進んでいるのかを実際に輪島市内や仮設住宅内を被災した方と回ることで知ることができた。また、被災地ではどのような復興作業が行われているのかを肉体労働や大人数の食事を作ることでその過酷さを知ることができた。

これらの経験を生かして講演の資料を作成し、幾度となく修正、加筆し母校の先生方にデモンストレーションを行った。そしてついに３月２日に講演を行うことが決定した。この報告書の提出時点では講演を行なっていないため、生徒の声や彼らがどのように感じたのかはまだわからない。しかしデモンストレーションでは、生徒に地震についての内容がどのようなものであるかが伝わり、それに対する意識が変わるだろうとおしゃっていただけた。

私たちの活動や発信を見て周りの日大生も約 15 名能登へ行った。そこでの経験を経たことによって居住地から離れていたとしても地震災害に対する意識が大きく変わった。この活動を通し、私たちから母校の生徒へ。日大生から付属生、母校の生徒へ。そして全国の大学生や高校生へ順々に伝わっていくことを願っている。そして私たち自身ももっと多くの人に伝えていきたいと感じている。今後も SNS や講演を通して地震を知ることの大切さ、そのうえで風化させないことの重要性を広めていこうと考えている。

活動写真





